

環太平洋パートナーシップ（ＴＰＰ）第 18 回会合
メディア声明（仮訳）
2013 年 7 月 25 日 於・サバ州コタキナバル

7 月 15 日から開始された第 18 回環太平洋パートナーシップ（ＴＰＰ）交渉が本日終了した。今回の交渉会合には、オーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、日本、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、米国、ベトナムから、650 名以上の政府関係者が出席した。

7 月 23 日、我々は 12 番目のＴＰＰ交渉参加国として日本を歓迎した。この 2 日間にわたり、参加国は交渉の現状について日本に説明を行った。日本は、迅速に交渉プロセスに参加する意思を示し、積極的に交渉に参加した。日本のＴＰＰへの参加は、7 億 9,000 万人からなり、27 兆米ドルの GDP を生み出し、世界の 3 分の 1 に相当する貿易量を有する市場を創出することになる。

今回の会合では 13 の交渉グループに分かれ、投資、不適合措置、競争、市場アクセス、原産地規則、ＴＢＴ、金融サービス、電子商取引、一時的入国、知的財産権、環境、政府調達、法的・制度的事項について議論を行った。

我々は、中間会合で前進した論点を採り上げるなどして、ほとんどの交渉グループにおいて、より技術的な論点の解決に向けて、良好な進展を続けた。また、我々は、より困難な論点における立場の違いを狭め、これら論点のいくつかにつき早期の決着に道筋を付けた。知的財産、環境及び国有企業に関するより困難な課題について、交渉官は交渉グループにおいて、作業を進める様々なオプションを検討した。

工業製品、農産品、繊維及び衣料製品の市場アクセスに関して、包括的な自由化の目標の達成に向けた交渉を加速させるため、交渉官は作業計画に合意した。

第 18 回交渉会合を通じて相当な進展があったものの、依然として、追加的な作業が必要な論点が多く残されている。我々は、交渉官がより困難でセンシティブな論点に取り組まなければならない段階に差しかかっている。我々は、全ての重要な論点を取り上げる交渉会合間に行われる作業についての明確なスケジュールを通じ、より多くの論点が次回交渉会合で妥結されることを期待している。

過密な交渉スケジュールにも関わらず、交渉官達はステークホルダーと対話することができた。2013 年 7 月 20 日にステークホルダー会合が開催された。200 以上のステークホルダーが参加し、内 44 が、産業界、NGO、学界、特定利益の団体にとっての幅広い関心・懸念についてペーパーを提出した。首席交渉官達も、ステークホルダーに対して交渉状況を説明し、寄せられた質問に対して回答を行った。

第 19 回ＴＰＰ交渉会合は、2013 年 8 月 22 日～30 日にブルネイで開催される予定。